

ウィークリー・アウトック

原油 100ドル台の世界!?

【今週のポイント】

- ・原油価格急騰で株価に大きな下落圧力。リスクオフが強まれば円売りの解消も？
- ・原油高を受けてノルウェークローネ/スウェーデンクローナは一段上昇も
- ・RBAの早期利上げ観測が高まる

米国とイスラエルがイランを攻撃する直前2月27日から3月6日の期間で、Bloombergが集計する17通貨の騰落率をみれば、強い通貨から「カナダドル>米ドル>英ポンド>ノルウェークローネ>スイスフラン>シンガポールドル>円……」の順でした。リスクオフにより米ドルやスイスフラン、円が買われ、原油高がカナダドル、英ポンド、ノルウェークローネを後押ししました。

騰落率下位は、「>ユーロ>NZドル>ブラジルリアル>メキシコペソ>韓国ウォン>南アフリカランド」となっており、リスクオフにより新興国通貨が敬遠されました。ユーロは通常、安全通貨としてリスクオフで上昇しやすいですが、米ドル高の裏返しであり、かつユーロ圏経済がエネルギー価格上昇に打撃を受けやすい面を反映して下位に沈みました。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
3月8日		【米】【カナダ】夏時間に移行			
3月9日	21:00	【メキシコ】CPI 前年比(2月)	3.97%	3.94%	3.79%
3月10日	8:50	【日】GDP改定値 前期比年率(10-12月期)	1.0%	1.0%	0.2%
	16:00	【ノルウェー】CPI 前年比(2月)	2.9%	2.8%	3.6%
		【ノルウェー】CPI-ATE 前年比(2月)	3.1%	3.0%	3.4%
3月11日	21:30	【米】CPI 前年比(2月)	2.4%	2.4%	2.4%
		【米】CPIコア 前年比(2月)	2.5%	2.5%	2.5%
3月12日	20:00	【トルコ】TCMB政策金利	37.00%	37.00%	37.00%
3月13日	21:30	【米】GDP改定値 前期比年率(10-12月期)	1.6%	1.4%	1.4%
		【米】PCEデフレーター 前年比(1月)	3.0%	2.9%	2.9%
		【米】PCEコアデフレーター 前年比(1月)	3.1%	3.1%	3.0%
	21:30	【カナダ】雇用者数 前月比(2月)	1.20万人	1.00万人	-2.48万人
		【カナダ】失業率(2月)	6.6%	6.6%	6.5%
	23:00	【米】JOLTS求人情数(1月)	680.0万件	675.0万件	654.2万件
	【米】ミシガン大学消費者信頼感指数・速報値(3月)	52.0	55.3	56.6	

市場予想はBloomberg、3月9日9:00現在。発表日時は日本時間。

引き続きイラン情勢や原油価格が大きな相場材料となりそうです。

トランプ大統領はイラン攻撃の初期成果に自信を深めており、イランに対して無条件降伏を要求しています。イランの最高指導者にハメネイ師の息子モジタバ師が就任したようです。しかし、トランプ大統領は、モジタバ師は相応しくない、自身が後継者選びに関与するなど発言しています。目的達成まで戦争の長期化も辞さない構えをみせていますが、目的が不透明なこともあって(無条件降伏?)、終わりの見えない戦争になりつつあります。

WTI 原油先物価格は日本時間 9 日午前一時 1 バレル=118.88ドルをつけました。原油価格が一段と上昇する可能性も否定できません。その場合、インフレ圧力の高まりに対して利下げ観測が後退、あるいは利上げ観測が浮上。また、景気に強い下押し圧力が加わることで、世界的にスタグフレーション懸念が強まりそうです。逆に、可能性は低いかもしれませんが、イラン戦争の早期終結期待が高まれば、原油価格が下落するなどして市場のリスクオフの地合いは後退しそうです。

今週は、米国の 2 月 CPI や 1 月 PCE デフレーターなどの物価指標が発表されます。6 日発表の 2 月雇用統計で NFP(非農業部門雇用者数)が前月比 9.2 万人減となるなど非常に弱い内容だったため、仮にインフレの落ち着きが示されれば、利下げ観測が高まるかもしれません。

ただ、重要なのは、上述した通り、イラン情勢であり、原油価格の動向でしょう。直接関係はなさそうですが、今週は、米韓軍事演習、NATO の北極圏軍事演習、EU 防衛相非公式会合など軍事関連のイベントが予定されており、イラン情勢に影響する材料が出るかもしれません。〈西田〉

2 月 28 日に米国とイスラエルがイランへの攻撃を開始したことを受け、先週(3/2-)はリスクオフ(リスク回避)が強まりました。その結果、米ドルが堅調に推移する一方で、投資家のリスク意識の変化を反映しやすい豪ドルや NZ ドルには下押し圧力が加わりました。また、原油価格の上昇に支えられて産油国の通貨であるカナダドルやノルウェークローネなどは底堅い展開でした。

今週は引き続き中東情勢をめぐるニュースに反応しやすい状況となりそう。新たなニュースによって中東情勢が一段と緊迫化する場合、リスクオフはさらに強まり、原油高がさらに進むと考えられます。

13 日にはカナダの 2 月雇用統計が発表されます。市場では、BOC(カナダ中銀)は政策金利を当面据え置くとの見方が優勢です。同国の雇用統計の結果を受けて、その見方がどのように変化するのか注目されます。

TCMB(トルコ中銀)が 12 日に政策会合を開きます。TCMB は前回 1 月まで 5 会合連続で利下げを実施し、前回会合の声明では 25 年 10 月と 12 月と同じく「(政策)措置の規模は、インフレ見通しを重視しつつ会合ごとに慎重に見直す」と表明。追加利下げに含みを持たせました。

トルコの2月CPI(消費者物価視指数)は前年比31.53%と、上昇率は前月の30.65%から高まりました。また、足もとの原油価格上昇の影響によってインフレ圧力は今後さらに強まる可能性があります。今回の会合で政策金利は現行の37.00%に据え置かれそう。そのとおりの結果になれば、TCMBの声明で先行きの金融政策についてどのようなヒントが提供されるのかに注目です。〈八代〉

今週の注目通貨ペア①: 〈米ドル/円 予想レンジ:150.000円~160.000円〉

日本時間9日に原油価格がさらに高騰し、リスクオフから米ドルが全面高の展開となっています。安全通貨として円も買われており、対米ドル、対カナダドル以外は堅調でした。米ドル/円は上昇して、今年の高値1月14日の159.405円に接近しています。そこを抜ければ160円、あるいは38年ぶりの高値となった24年7月の161.938円が視野に入るかもしれません。

もっとも、米ドル/円が堅調に推移すれば、本邦当局からけん制発言や日銀のレートチェック、さらには実弾介入の動きも出てきそうです。また、今年1月の例に倣えば、米財務省主導でFRBがレートチェックを行うかもしれません。

NYダウ先物は日本時間9日11:30現在で前週末から2.4%程度下落しています(同じ時間に日経平均は約7%下落)。欧米時間に入って株価が大きく下落すれば、投資家のリスクオフが一段と強まるかもしれません。通常レベルのリスクオフでは現在のように安全資産として米ドルが選好されるケースもあるでしょう。ただ、非常に強いショックが生じると、ポジションの解消、例えば円キャリートレードの巻き戻しによって米ドル/円に下落圧力が加わる可能性にも注意すべきでしょう。〈西田〉

今週の注目通貨ペア②: 〈ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ

予想レンジ:0.95000S クローナ~0.98000S クローナ〉

原油価格の上昇は、産油国であるノルウェーの通貨クローネにとってプラス材料でしょう。ノルウェークローネ/スウェーデンクローナ(NOK/SEK、以下同じ)は、21年~24年は0.95000Sクローナを下限としていました。しかし、25年3月から約1年間は同水準を下回って推移する時間が増えました。それでも、25年末に20年コロナ・ショック以来の低水準近辺まで下落した後は、反発しています。リクスバンク(スウェーデン中銀)の利下げ観測が台頭する一方で、ノルゲバンク(ノルウェー中銀)の利下げ観測が大きく後退したためです。

そして、米国とイスラエルによるイラン攻撃を契機に原油価格が上昇すると、NOK/SEKは0.95000Sクローナを明確に超えてきました。このままNOK/SEKが24年の変動レンジ(0.95000Sクローナ~1.00000Sクローナ)に回帰するかどうか。原油価格の動向に要注意でしょう。

なお、3月6日時点のOIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場はリクスバンクが6月までに利上げする確率を1割程度織り込んでいます(5日まではわずかながら利下げ予想)。一方、ノルゲバンクの利上げ確率は約4割。相場材料としての金融政策見通しの違いはイラン戦争開始以前に比べると小さくなっています。〈西田〉

今週の注目通貨ペア③: <豪ドル/NZドル 予想レンジ:1.17500NZドル~1.20000NZドル>

豪ドル/NZドルは3日に一時1.19749NZドルへと上昇し、13年6月以来の高値をさらに更新しました。RBA(豪中銀)のブロック総裁が同日の講演で「必ずしも(4月29日発表の豪州の)1-3月期CPI(消費者物価指数)を待つ必要はない」、「毎回の会合がライブ(政策変更の可能性がある)」、「より迅速な対応が必要かどうかを検討する」と発言。それを受けてRBAによる早期の追加利上げ観測が市場で高まったことが、豪ドル/NZドルの上昇要因となりました。

市場では、RBAは次回3月16-17日の政策会合で政策金利を3.85%に据え置いて、次々回5月の会合で0.25%の追加利上げを行うとの見方が引き続き優勢。ただし、足もとで原油価格が上昇していることで、3月の追加利上げ観測が高まっています。OIS(翌日物金利スワップ)に基づけば、市場が織り込む3月会合の確率は据え置きが6割強、利上げが4割弱です(日本時間9日10:40時点)。一方、同じくOISに基づけば、RBNZ(NZ中銀)の政策金利は当面据え置かれて、26年9月に利上げが行われるとの見方が優勢です。

RBAとRBNZの金融政策に対する市場の見方を踏まえると、豪ドル/NZドルは引き続き底堅く推移しそうです。<八代>

今週の注目通貨ペア④: <米ドル/カナダドル 予想レンジ:1.35000カナダドル~1.38000カナダドル>

先週(3/2-)は、リスクオフ(リスク回避)によって米ドルが対円や対ユーロなどで堅調に推移するなか、米ドル/カナダドルは1.36カナダドル台を中心とした値動きとなり方向感が乏しい展開でした。原油価格の上昇がカナダドルにとってのプラス材料となったと考えられます。

今週は13日にカナダの2月雇用統計が発表されるものの、市場の注目は引き続き中東情勢に向かうとみられます。仮に中東情勢が一段と緊迫化してリスクオフがさらに強まったとしても、原油高も進むようであれば、米ドル/カナダドルは方向感が乏しい状況が続くかもしれません。<八代>

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘 (にしだ あきひろ)

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。
米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也 (やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。
豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できるとされる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
